

「経営（ESG）」と「技術（SGDs）」を両輪とする 海事クラスターで生きる海技者に求められるものはなにか（続報）

海事問題調査委員会 委員長 松田 洋和（東船大 N22）

未だ新型コロナウイルス感染症は収束の気配をみせない中、令和4年度の実地調査は昨年度と同じく、TV会議を通し「報告書」について話し合っていました。そこでは海事社会の諸問題に注目し調査・研究を行い、海洋会の読者に可能な限り分かり易くお届けしようと思います。

各海事関連団体からは、『「経営（ESG）」と「技術（SDGs）」』に取り組む多くの事例が発表され、ESGやSDGsの用語はごく一般的となり、広く語られていることから昨年度の報告内容の続報を取り纏めることにしました。

今年度は、『「経営（ESG）」と「技術（SDGs）」を両輪とする海事クラスターで生きる海技者に求められるものはなにか（続報）』と題し、以下の3つのサブ・テーマについて取りまとめています。

I. AI・Big Data・サイバーセキュリティ

～自動運航船の実用化に向けた動き（続報）／今あるAI技術をもっと船に活用しては？／船舶と船員に求められるサイバーセキュリティ対策～

II. ゼロエミッション

～国際海運における地球温暖化対応（カーボンニュートラル）に向けた具体的開発について～

III. 海技（船・海技者）を取りまく環境の変化

～次世代の海図 S-100 について／難民船救助活動についての事前検討と対策の必要性／独立行政法人海技教育機構（JMETS）練習船の新型コロナウイルス禍への対応～

海事問題調査委員会委員

委員長 松田 洋和（東船大 N22）

委員 掛谷 茂（東船大 E22）

山岸 雅仁（東船大 N39）

宮川 敏征（神船大 N37）

関川 倫廉（東船大 MN10）

井上 尚則（神船大 E31）

庄司 るり（東船大 N34）

井上 美樹（海洋大 NN5）

令和4年度の実地調査報告は、本誌89頁～128頁に掲載していますのでご一読ください。